

科目名	キャリア教育 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 梅村 雄也 滝波 栄一郎 鎌田 滋
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。					
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
2		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践復習しレポート作成
3		講義	10年後の目標の立て理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義	5年後の目標の立て理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成。
5		講義	3年後の目標の立て理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認しレポート作成。
6		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業し理解確認しレポート作成。
7		講義	キューブを使つてのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義	パズルワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業をしレポート作成
10		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
11		講義	キューブを使つてのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
12		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習 時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	
新社会人の心得、七つの習慣				

科目名	キャリア教育 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 梅村 雄也 滝波 栄一郎 鎌田 滋
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。					
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	仕事を知り社会の中での自分の役割を理解し説明できる。	仕事を知り社会の中での自分の役割を理解しレポート作成
2		講義	「チームワーク力」：現状と役割を理解して協力し合う大切さを学び実践できる	「チームワーク力」：現状と役割を理解して協力し合う大切さを学び理解しレポート作成
3		講義	「働きかけ力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力を学び実践できる	「働きかけ力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力を学び理解しレポート作成
4		講義	「創造力」：新しい価値を生み出す力学び実践できる	「創造力」：新しい価値を生み出す力学び理解しレポート作成
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深め説明できる	ジョブカードを用い、職業理解を深め理解しレポート作成
6		講義	【プロフィールの書き方】 イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	【プロフィールの書き方】 イベントを整理し、自らの経験を理解しレポート作成
7		講義	【プロフィールの書き方】 自己理解を深め客観視出来るようになる	【プロフィールの書き方】 自己理解を深め客観視し理解しレポート作成
8		講義	【履歴書の書き方】 自分の長所・短所が伝えられるようになる	【履歴書の書き方】 自分の長所・短所が伝えられるように理解しレポート作成
9		講義	基本的対話スキルについて習得し実践できる	基本的対話スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
10		講義	自己表現スキルについて習得し実践できる。	自己表現スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
11		講義	社会的スキルについて習得し実践できる。	社会的スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
12		講義	サービスマインドについて習得し実践できる。	サービスマインドについて習得し実践、理解しレポート作成
13		講義	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受講	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受講準備
14		講義	他クラス・他セクションとのコミュニケーションを通じて学ぶ	他クラス・他セクションとのコミュニケーションを通じて学ぶ、理解しレポート作成
15		講義	試験	これらを踏まえてレポート作成
準備学習 時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	
【使用教科書・教材・参考書】 新社会人の心得、七つの習慣				

科目名	キャリア教育 3	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 梅村 雄也 滝波 栄一郎 鎌田 滋
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。					
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作り実践する	「学生生活の基盤」を理解しレポートへまとめる。
2		講義	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することができる	「主体性」を理解しレポートへまとめる
3		講義	モチベーションコントロール計画的に主体的行動がとれるようになり実践できる	モチベーションコントロールを理解しレポートへまとめる
4		講義	「傾聴力」: 人の話を聞くことの重要性をしり実践できる	「傾聴力」を理解しレポートへまとめる
5		講義	「発信力」: 伝える内容をわかりやすく伝える力を学び実践できる	「発信力」を理解しレポートへまとめる
6		講義	「傾聴力」「発信力」を実践させ行動出来る力を習得し実践できる。	「傾聴力」「発信力」を理解しレポートへまとめる
7		講義	言葉遣いやマナーを学び理解し実践できる。	言葉遣いやマナーを理解しレポートへまとめる
8		講義	自分自身の課題を発見し、解決していく力を養い実践できる。	自分自身の課題を発見し、解決していく力を理解しレポートへまとめる
9		講義	企業の方をお招きし、職種や働き方を学び実践できる。	企業の方をお招きし、職種や働き方を理解しレポートへまとめる
10		講義	「計画力」: 計画的に行動する力を学び実践できる	「計画力」を理解しレポートへまとめる
11		講義	「実行力」: 目標を設定して着実に行動する力を学び実践できる	「実行力」を理解しレポートへまとめる
12		講義	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学び実践できる	「課題発見力」を理解しレポートへまとめる
13		講義	態度・マナーについて説明し、理解し実現できる	態度・マナーについて理解しレポートへまとめる
14		講義	クラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学び実践できる	クラス・後輩とのコミュニケーションを理解しレポートへまとめる
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習 時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	
【使用教科書・教材・参考書】 新社会人の心得、七つの習慣				

科目名	キャリア教育 4	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 梅村 雄也 滝波 栄一郎 鎌田 滋
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。					
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
2		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践復習しレポート作成
3		講義	10年後の目標の立て理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義	5年後の目標の立て理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成。
5		講義	3年後の目標の立て理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認しレポート作成。
6		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業し理解確認しレポート作成。
7		講義	キューブを使っのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義	パズルワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業をしレポート作成
10		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
11		講義	キューブを使っのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
12		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習 時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	
新社会人の心得、七つの習慣				

科目名	ミュージックセオリー 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵理 太田 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解説明できる。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成
2		講義	音名を理解し言える。	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
3		講義	音名、音符、休符を理解し言える。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
4		講義	音符、休符を理解し説明できる。	音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
5		講義	拍子、複合拍子を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
6		講義	記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成
7		講義	反復記号を理解し説明できる。	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
8		講義	音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作成
9		講義	音程を理解し説明できる。	音程(2.3.6.7度、#とあり)を復習しレポート作成
10		講義	音程を理解し説明できる。	音程(1.4.5.8度、#とあり)を復習しレポート作成
11		講義	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成
12		講義	メジャースケールを理解し説明できる。	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
13		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成
14		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
15		講義	中間テスト	テスト学習し、レポート作成
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	ミュージックセオリー 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵 太田 理 沙
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル作曲や楽曲アレンジができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	代理コード(裏コードを含むダイアトニック外の代理コード)を理解し説明できる。	メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成
2		講義	借用和音を理解し説明できる。	マイナーキーからの借用和音を入れたコード進行を理解し復習レポート作成
3		講義	転調を理解し説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習レポート作成
4		講義	アナライズを理解し説明できる。	楽譜と音源から楽曲分析を理解し復習レポート作成
5		講義	ヴォイシングを理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習レポート作成
6		講義	アベイラブルノートスケール(メジャー)を理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
7		講義	アベイラブルノートスケール(マイナー)を理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
8		講義	ドミナントスケールを理解し説明できる。	V7に適したスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
9		講義	コードに適したスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習レポート作成
10		講義	その他のスケールを理解し説明できる。	前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成
11		講義	まとめ	復習をしを理解し復習レポート作成
12		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。	今までの内容を復習し理解度を高める 期末テストを理解し復習レポート作成
13		講義	期末予備テスト	復習、テスト対策をし期末テストに備える
14		講義	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。
15		講義	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	イヤートレーニング 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵 太田 理 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
14		講義	期末テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】 「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)				

科目名	イヤートレーニング2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵理 太田 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。					
評価方法及び基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り(GMajor)、2声メロディー、音程ドリルを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成
2		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor、2声ハーモニー)、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成
3		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor)、3度音程の2声ハーモニー書き取り、音程ドリル コードI、IV、Vの聴き取りを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習確認理解しレポート作成
4		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) P4P5トライアートのハーモニー練習 コードI、IV、Vの聴き取りを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習確認理解しレポート作成
5		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って) メロディー書き取り(16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードI、IV、Vの聴き取りを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
6		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードI、IV、Vの聴き取りを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
7		講義	リズム打ち・書き取り(G.Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードI、IV、Vの聴き取りを理解説明ができる。	今までの内容を復習し次の授業に備え確認理解しレポート作成
8		講義	リズム打ち・書き取り(G.G.Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードI、IV、Vの聴き取り、IV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
9		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) 6度音程のハーモニー練習 コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
10		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
11		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー) オクターブとユニゾンハーモニー練習 コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
12		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
13		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
14		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、G.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードIV(II m)→V-Iの聴き分けを理解説明ができる。	総復習を行い期末テストに備え確認理解しレポート作成
15		講義	期末テスト	総復習を確認理解しレポート作成
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】 「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売) 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				



科目名	Expression A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 崔可嘆 橋元美沙 齊藤早春 吉田華奈 鈴木さくら キムゴンヒョン 國末慶宏 長谷川開
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していくには幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック	
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする	
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック	
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする	
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする	
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまちチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	expression A-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 崔 可瑛 橋元 美沙 齊藤 早春 吉田 華奈 鈴木 さくら キムゴンヒョン 國末 慶宏 長谷川 開
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二				2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成	
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成	
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成	
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成	
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成	
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成	
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成	
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。	
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成	
11		講義	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を復習レポート作成	
12		講義	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成	
13		講義	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成	
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成	
15		講義	試験及び課題の提出。	試験課題に向けて復習レポート作成	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	expression B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	Bbメジャースケールについて説明できる。	Bbメジャースケール復習レポート作成
5		講義	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート (ベースライン) を理解し説明ができる。	ベースパート (ベースライン) を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	Cマイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2)。 C 短三和音を復習レポート作成
12		講義	Cマイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子 (6拍子として) を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子 (6拍子として) を復習レポート作成
13		講義	Cマイナースケール (自然的短音階) 8分の6拍子 (2拍子として) を理解し説明ができる。	Cマイナースケール (自然的短音階) 8分の6拍子 (2拍子として) を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	Bbメジャースケールについて説明できる。	Bbメジャースケール復習レポート作成
5		講義	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	Bbメジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	Abメジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	Ebメジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Basic Keyboard 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	キーボーディストとして様々なアーティストのライブ、レコーディングに参加						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎練習とキーボードの使用法を理解し実践できる	基礎練習とキーボードの使用法を理解し実演する
2		演習	基本のコードとコードネームを理解し実践できる	基本のコードとコードネームを理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実践できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	きらきら星を理解し実践できる	きらきら星を理解し実演する
5		演習	ペントニック、リフを理解し実践できる	ペントニック、リフを理解し実演する
6		演習	Bluesについて理解し実践できる	Bluesについて理解し実演する
7		演習	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実践できる	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実演する
8		演習	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実践できる	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演する
9		演習	マイナースケールを理解し実践できる	マイナースケールを理解し実演する
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実践できる	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する
11		演習	Blues Em riffを理解し実践できる	Blues Em riffを理解し実演する
12		演習	Blues Em riffを理解し実践できる	Blues Em riffを理解し実演する
13		演習	いろいろな音色を使って演奏する。	音色の整理を行いサウンドをつくる
14		演習	いろいろな音色を使って演奏する。	音色の整理を行いサウンドをつくる
15		演習	試験	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Basic Keyboard 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	キーボーディストとして様々なアーティストのライブ、レコーディングに参加						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シールドなど機材での音の変化を理解し実践できる	シールドなど機材での音の変化を理解し実演する
2		演習	コードの展開を理解し実践できる	コードの展開を理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実践できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	2つ以上組み合わせる音色を理解し実践できる	2つ以上組み合わせる音色を理解し実演する
5		演習	ペンタトニック、オブリガートを理解し実践できる	ペンタトニック、オブリガートを理解し実演する
6		演習	Bluesを理解し実践できる	Bluesを理解し実演する
7		演習	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実演する
8		演習	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実演する
9		演習	ソロの構成を理解し実践できる	ソロの構成を理解し実演する
10		演習	各ジャンルでのバックングを理解し実践できる	各ジャンルでのバックングを理解し実演する
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し実践できる	各ジャンルでのriffを理解し実演する
12		演習	ピッチバンドを使用したソロを理解し実践できる	ピッチバンドを使用したソロを理解し実演する
13		演習	エフェクト紹介1を理解し実践できる	エフェクト紹介1を理解し実演する
14		演習	エフェクト紹介2を理解し実践できる	エフェクト紹介2を理解し実演する
15		演習	試験と復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Information Technology 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	緒形 文
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「発信していく力」を育むことであり、パソコン(Mac)の取り扱い方(PCスキル)とネットリテラシー(インターネットを正しく使うスキル)を学びます。 具体的には、写真編集・音楽編集・映像編集・デザイン それらを組み合わせた作品創りを通して、様々なアプリケーションの基本操作を習得します。						
到達目標	学生が自ら編集した、写真・音楽・映像・タイトルを組み合わせ、一つの短編映像作品を作成することができる。 作業を通じて完成までのプロセスを理解し、合理的に作業することができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	PCに慣れる・インターネット基礎知識 ITリテラシーを理解する	授業目的の再確認をする(ITスキル、リテラシー、ホーム ルームとの連携)
2		講義	イラストレーターの基礎が理解できる。 COM Debut Bankにログインできる。	イラストレーターの基礎ツールを理解することができる デビューバンク(プロフィール)の紹介・入力をする。
3		講義	Wordの基礎が理解できる。 COM Debut Bankに情報を加える。	Wordを使ったプロフィール制作ができる。 デビューバンク(プロフィール)の表示を確認し修正をする。
4		講義	写真の画像編集の基礎ができる。 ITリテラシーを理解できる。	Pixlr Express を使って、写真のサイズ変更(指定されたサイズ)、背景加工 などができる。
5		講義	写真の画像編集の細かい編集ができる ITリテラシーについて説明ができる。	写真編集の応用を理解し実演できる。
6		講義	iMovieの仕組みを理解できる。	iMovieで取り込み・分割ができる。
7		講義	iMovieの基礎が理解できる。	基礎的なツールを使用して動画を編集できる。
8		講義	Garage bandを使用できる。	曲データの編集ができる。
9		講義	Logicが使用できる。	曲編集と打ち込み作業ができる。
10		講義	短編映像作品を作る。	指定されたコンテ画を元に、写真・動画を編集しタイトル(オープニング、エン ディング)も含めMP4ファイルにて書き出すことができる。
11		講義	短編映像作品に音楽を流すことができる。	音楽を編集した作品をMP4ファイルにて書き出すことができる。
12		演習	テストと復習	次chapter予習復習する。
13		講義	制作映像の発表ができる。	作品をプロのクオリティーに近づける。
14		講義	制作映像の評価会で使用した技術を説明できる。	発表した映像に評価会で得た知識を実践で試す。
15		講義	使用した各ソフトウェアの基礎が説明できる。	作品を通してYoutube、SNSでの発信 それに伴う注意点やメリット・デメリット について深く学習する。
準備学習 時間外学習			映像・音楽編集ソフトと文書作成ソフトの基礎の理解をする。週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Diction 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 田原 佑一朗 國末 慶宏 橋元 美沙 キムゴンヒョ ン
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導					
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーブを作ってリード表現が実践できる		課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる		課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする		課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる		課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる		課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
13		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる		英語を発音するための研究800-1000字以内でレポート作成。
14		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。
15		演習	試験		振り返りを行いレポート作成
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Diction 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 田原 佑一朗 國末 慶宏 橋元 美沙 キムゴンヒョ ン
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導					
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上					
評価方法と基準	実技試験100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
13		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語を発音するための研究800-1000字以内でレポート作成。
14		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。
15		演習	試験	振り返りを行いレポート作成
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤 豊 田原 佑一朗 熊谷 文
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤 豊 田原 佑一朗 熊谷 文
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習		アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メロノームを使用したを理解し実演。	メロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アレンジングを理解し説明ができる	アレンジング 復習レポート作成
2		講義	メロディーとハーモニーの関係、和声音と非和声音。コードシンボルを理解し説明ができる	和声音と非和声音。コードシンボルの復習レポート作成
3		講義	楽器グループと音域、ソロ、ユニゾン、オクターブメロディー、メロディーのアレンジメントを理解し説明ができる	楽器グループと音域の復習レポート作成
4		講義	4パートソリ。メカニカルヴォイシング (4ウェイクロス、ドロップ2、ドロップ3、ドロップ2+4) を理解し説明ができる	4パートソリ。メカニカルヴォイシングの復習レポート作成
5		講義	4パートソリ。アプローチテクニック。ローインテナーヴァリミットを理解し説明ができる	ローインテナーヴァリミットの復習レポート作成
6		講義	2パートソリ、3パートソリを理解し説明ができる	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
7		講義	中間課題の説明を理解し述べる事ができる。	中間課題レポート作成
8		講義	中間確認試験と復習	1-8の復習レポート作成
9		講義	ヴォイスリーディングとガイドトーンラインを理解し説明ができる	ヴォイスリーディングの復習レポート作成
10		講義	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングを理解し説明ができる	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングの復習レポート作成
11		講義	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディーを理解し説明ができる	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディー復習レポート作成
12		講義	インデペンデントリード。ソリとの混用を理解し説明ができる	インデペンデントリードの復習レポート作成
13		講義	アーティキュレーション。編曲の手順、復習、詳細、そして練習を理解し説明ができる	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義	期末課題の説明を理解し述べる事ができる。	期末課題に向けて復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			ジャズ音楽理論の基礎と作曲方法の確認と復習を実践していく。	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Rock Seminar 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	嶋田 恭 子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	本校卒業後ヴォーカリストとしてメジャーデビュー。バンド活動・作詞作曲を行い、活動中。						
授業の学習 内容	Vocalistとして必要な基本テクニックや、リズム感、音感、パフォーマンスを含め、人を魅了できるvocalistを総合的に目指す授業。体が楽器だということを忘れずに、メンタルや歌手としてのスキルアップ。アンサンブルやステージで生かせる技術を習得。長く歌えるVocalistを目指す。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なROCK音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKの特徴を理解し実践する。	ROCKの特徴を理解し実演する・
2		演習	ROCKの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	ROCKの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するROCKアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Rock Seminar 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	嶋田 恭 子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	本校卒業後ヴォーカリストとしてメジャーデビュー。バンド活動・作詞作曲を行い、活動中。						
授業の学習 内容	Vocalistとして必要な基本テクニックや、リズム感、音感、パフォーマンスを含め、人を魅了できるvocalistを総合的に目指す授業。体が楽器だということを忘れずに、メンタルや歌い手としてのスキルアップ。アンサンブルやステージで生かせる技術を習得。長く歌えるVocalistを目指す。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なROCK音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	ROCKバラードを分析し演奏できる。	ROCKバラードを分析し実演する。
10		演習	ROCKバラードをアンサンブルで演奏できる。	ROCKバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するROCKアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	J-POP Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井 康行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	J-POPの特徴を理解し実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する・
2		演習	J-POPの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	J-POP Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井 康行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	J-POPバラードを分析し演奏できる。	J-POPバラードを分析し実演する。
10		演習	J-POPバラードをアンサンブルで演奏できる。	J-POPバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Global communication 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末 信
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	挨拶が出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 1
2		講義	個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 3
3		講義	好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことができるようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 6
4		講義	相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることができるようになる 誘いに返答することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 8
5		講義	相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に対して返答出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 11
6		講義	時間について尋ねる、伝達することが出来るようになる 日常生活について尋ねることが出来るようになる 日常生活について説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 7 & 13
7		講義	継続して質問することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 14
8		講義	場所について質問出来るようになる ある場所を説明することが出来るようになる 道案内ができるようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 19 & 20
9		講義	頻度について説明出来るようになる 頻度について質問出来るようになる 値段を説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 21 & 23
10		講義	食べ物について質問出来るようになる 食べ物を説明出来るようになる レストランで注文出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 28
11		講義	過去のことについて質問ができるようになる 過去のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 29 & 30
12		講義	将来のことについて質問ができるようになる 将来のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 32
13		講義	復習	復習オンライン プラクティス
14		定期試験	定期試験	試験を振り替えり、間違ったところを復習しレポートにまとめる。
15		振り返り	1~14の振り返り学習をし、総合的に確認し会話習得できる。	1~14の苦手な部分と得意な部分を書き出してレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	日本語講座 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。また適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現を使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にできる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	日本語講習の重要性と講習内容説明	日本語講習の重要性の復習とアンケート記入
2		講義	レベルチェックテスト、自己紹介ができる。	自己紹介を3名以上に授業外で実施してみる。
3		講義	判断、意志を表す表現が理解できる	レベルチェックテストの復習
4		講義	仮定条件を使って判断、意志を表現することができる	仮定条件を使って判断、意志を表現の復習確認
5		講義	理由を強調して自身の考えを述べる事が出来る	理由を強調して自身の考えをまとめて作文をつくる。
6		講義	意向形を使い自身の考えを述べる事が出来る	意向形を使い自身の考えをまとめて作文をつくる。
7		講義	地位や立場を表す表現を使って自身の判断を述べる事が出来る	地位や立場を表す表現を使って自身の考えをまとめて作文をつくる。
8		講義	「～ない」を使った間接的な言い方が理解できる	「～ない」を使った間接的な言い方を使った作文をつくる
9		講義	二重否定、反語を理解し正しく使う事が出来る	二重否定、反語を理解し正しく作文を作成する。
10		講義	目標、目的をかたい表現で言う事が出来る	目標、目的をかたい表現で作文する。
11		講義	結果、事実関係を正確に伝える事が出来る	結果、事実関係を正確に作文作成する。
12		講義	時間関係の表現を使い分ける事が出来る	時間関係の表現を作文してみる。
13		講義	目標、目的をやさしい表現で言う事が出来る	目標、目的をやさしい表現で作文する。
14		講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15		講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 スピードマスター-N1文法、新完全マスター-N1語彙、その他必要に応じた資料				

科目名	日本語講座 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2		講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3		講義	「ごとく」を使った表現を使い分けすることができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4		講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5		講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6		講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8		講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9		講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10		講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11		講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12		講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14		講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15		講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music History 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田 剛
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、深く歴史を知る必要がある。本講義では西洋音楽の歴史を学ぶ。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為には、深く歴史を知る必要がある。本講義では西洋音楽の歴史を学び理解し説明ができるようにする。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アメリカの現代史と音楽ジャンルの説明ができる。	グレゴリアンチャント、チャーチモード、記譜法の復習レポート
2		講義	スコット・ジョップリン(1868-1917)の説明ができる。	中世の西洋音楽の復習レポート
3		講義	デューク・エリントン(1899-1974)の解説ができる。	ルネッサンス期の西洋音楽の復習レポート
4		講義	ルイ・アームストロング(1901-1971) "ジャズ"について説明できる。	ルネッサンス期の西洋音楽の復習レポート
5		講義	17世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家についての説明ができる。	17世紀の西洋音楽の復習レポート
6		講義	17世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家についての説明ができる。	17世紀の西洋音楽の復習レポート
7		講義	18世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家についての説明ができる。	18世紀の西洋音楽の復習レポート
8		講義	18世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家についての説明ができる。	18世紀の西洋音楽の復習レポート
9		講義	中間確認テスト及び復習。	1~8回までの復習総括レポート
10		講義	19世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家の説明をすることができる。	19世紀の西洋音楽の復習レポート
11		講義	19世紀の西洋音楽の概要、技法、作曲家②の説明をすることができる。	19世紀の西洋音楽の復習レポート
12		講義	20世紀以降の西洋音楽の概要、技法、作曲家①の説明をすることができる。	20世紀の西洋音楽の復習レポート
13		講義	20世紀以降の西洋音楽の概要、技法、作曲家②の説明をすることができる。	20世紀の西洋音楽の復習レポート
14		講義	学期末試験、学期末課題の説明の説明をすることができる。	1~14回までの復習総括レポート
15		講義	学期末試験及び復習。	総復習総括レポート
準備学習 時間外学習			西洋音楽について各年代のレポートを作成する、準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Music History 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田 剛
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、深く歴史を知る必要がある。本講義ではアフロミュージックの歴史を学ぶ。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為には、深く歴史を知る必要がある。本講義ではアフロミュージックの歴史を学び理解説明ができるようにする。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アメリカの現代史と音楽ジャンルの説明ができる。	アメリカの現代史と音楽ジャンルの復習レポートをまとめる。
2		講義	スコット・ジョップリン(1868-1917)の説明ができる。	スコット・ジョップリン(1868-1917)の復習レポートをまとめる。
3		講義	デューク・エリントン(1899-1974)の解説ができる。	デューク・エリントン(1899-1974)の復習レポートをまとめる。
4		講義	ルイ・アームストロング(1901-1971) "ジャズ"について説明できる。	ルイ・アームストロング(1901-1971)の復習レポートをまとめる。
5		講義	ロバートジョンソン(1911-1938) ロック、ブルースについて説明できる。	ロバートジョンソン(1911-1938)の復習レポートをまとめる。
6		講義	チャーリーパーカー(1920-1955) インプロヴィゼーションについて解説できる。	チャーリーパーカー(1920-1955)の復習レポートをまとめる。
7		講義	マイルス ディヴィス(1926-1991)について解説できる。	マイルス ディヴィス(1926-1991)の復習レポートをまとめる。
8		講義	その他のアフリカン・アメリカンアーティストについて説明ができる。	1~7回の復習レポートをまとめる。
9		講義	中間確認テスト及び復習。	ジェイムス ブラウン(1933-2006)の復習レポートをまとめる。
10		講義	クインシー ジョーンズ(1933-) プロデューサーについて説明できる。	クインシー ジョーンズ(1933-)の復習レポートをまとめる。
11		講義	ジミ ヘンドリックス(1942-1970)について説明できる。	ジミ ヘンドリックス(1942-1970)の復習レポートをまとめる。
12		講義	モータウン(1959-1994) ポップスについて解説できる。	モータウン(1959-1994)の研究復習レポートをまとめる。
13		講義	スティーヴィー ワンダー(1950-) ソングライティングについて解説できる。	スティーヴィー ワンダー(1950-)の研究
14		講義	マイケル ジャクソン(1958-2009) モータウン、ポップスを解説できる。	マイケル ジャクソン(1958-2009)の研究
15		講義	学期末試験及び復習。	1~14回の復習
準備学習 時間外学習			アフロミュージックについて各年代のレポートを作成する、準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	expression A-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 潤 豊 慶 國末 宏 橋元 美 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる。	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック	
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする	
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック	
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする	
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする	
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
9		演習	中間確認テスト及び復習。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いましたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	expression A-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 潤 豊 慶 國末 宏 橋元 美 沙
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる。	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック	
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする	
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック	
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする	
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする	
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする	
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
9		演習	中間確認テスト及び復習。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする	
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
15		演習	学期末試験及び復習。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いましたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	expression B-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田 麻 希
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	中間確認テスト及び復習。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression B-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田 麻 希
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	中間確認テスト及び復習。	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	中間確認テスト及び復習。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアン(リディアン)の復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアン(ドリアン)を理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアン(ドリアン)の復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアン(フリジアン)を理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアン(フリジアン)の復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアン(ロクリアン)を理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアン(ロクリアン)の復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	expression C-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一 朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる		イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる		ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる		モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる		モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる		モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる		クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる		クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。		中間試験、中間課題準備
9		講義	中間確認テスト及び復習。		転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる		転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる		ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる		ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる		無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる		無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。		学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Vocal Technique 1	必修 選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴						
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導					
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。	
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。	
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。	
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する	
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		POPSリズムのバリエーションを復習し実践する	
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する	
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる		課題曲の歌詞A部分を覚え復習し実践する	
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる		課題曲の歌詞B部分を覚え復習し実践する	
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる		課題曲の歌詞C部分を覚え復習し実践する	
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる		課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する	
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる		課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する	
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる		英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。	
13		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる		英語を発音するための研究800-1000字以内でレポート作成。	
14		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる		ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。	
15		演習	学期末試験及び復習。		振り返りを行いレポート作成	
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Vocal Technique 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。	
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。	
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。	
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する	
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する	
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する	
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーブを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する	
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する	
9		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーブを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する	
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する	
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する	
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。	
13		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語を発音するための研究800-1000字以内でレポート作成。	
14		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。	
15		演習	学期末試験及び復習。	振り返りを行いレポート作成	
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					



科目名	Rock Seminar 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	嶋田 恭 子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	本校卒業後ヴォーカリストとしてメジャーデビュー。バンド活動・作詞作曲を行い、活動中。						
授業の学習 内容	Vocalistとして必要な基本テクニックや、リズム感、音感、パフォーマンスを含め、人を魅了できるvocalistを総合的に目指す授業。体が楽器だということを忘れずに、メンタルや歌い手としてのスキルアップ。アンサンブルやステージで生かせる技術を習得。長く歌えるVocalistを目指す。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なROCK音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	ROCKバラードを分析し演奏できる。	ROCKバラードを分析し実演する。
10		演習	ROCKバラードをアンサンブルで演奏できる。	ROCKバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するROCKアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Rock Seminar 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	嶋田 恭 子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	本校卒業後ヴォーカリストとしてメジャーデビュー。バンド活動・作詞作曲を行い、活動中。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Self accompaniment 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	脇阪 真 由
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Self accompaniment 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	脇阪 真由
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 國末 慶宏
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	学期末試験及び復習。	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 國末 慶宏
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	学期末試験及び復習。	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Composition 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的なトライアドの理解	12音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	12音階のダイアトニックコード演奏できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別しコード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。 ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドⅡmを取り入れる	リレイテッドⅡmとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲(I-VIⅢ-IV-V)のアナライズ	スタンドバイミーを聴いて採譜する
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係性を理解する
8		試験	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを3つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し3パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。 EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		演習	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Composition 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演技	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		試験	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアナライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演技	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演技	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演技	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演技	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演技	トラックメイカー目線でのミックスを学びり色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを実際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	Soul & Pops Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	加藤 エレ ナ 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらい。楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。
2		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Soul & Pops Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	加藤 エレ ナ 田原 佑 一朗
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	著作権 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の基礎知識を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	アーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	著作権 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、高度な著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の高度知識を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	海外著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	海外でのアーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	英文の契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	海外の著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	海外で音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	中間確認テスト及び復習。	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	学期末試験及び復習。	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Semi Private Lesson 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	野見山 正貴 小林 幸恵 金野 友美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。						
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタニックスケールの5パターン、ダイアトニックアルペジオの使い方、ソロ奏法ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。
2		演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
3		演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
4		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
5		演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
6		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
7		演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
8		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
9		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
10		演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
11		演習	メジャー、マイナー、デミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー、マイナー、デミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方の復習を行い実演する。
12		演習	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
13		演習	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
14		演習	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
15		演習	学期末試験及び復習。	試験
準備学習 時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Semi Private Lesson 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	野見山 正貴 小林 幸恵 金野 友美
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏バリエーションを学ぶ。						
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々なスタイルの楽曲を様々なキーで演奏する。						
評価方法と基準	実技による採点: 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	譜面の読み方、パート作りを行い書くことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書くし譜面作成する。
2		演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのバリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、8ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース+ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース+ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14		演習	6/8拍子のロックスタイルの理解しKey=CMのレゲエスタイル曲の演奏する。	6/8拍子のロックスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
15		演習	学期末試験及び復習。	テスト。
準備学習 時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Original song 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	サウンドプロデューサー、ギタリストとして活動						
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作詞、アレンジの能力が必要となる。本講義では作詞の基礎とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な作詞の基礎を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	歌謡曲の考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
2		講義	邦楽歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
3		講義	邦楽ロック曲の考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
4		講義	邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
5		講義	邦楽ポップスの考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
6		講義	邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
7		講義	洋楽ポップスの考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
8		講義	洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
9		講義	邦楽歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
10		講義	洋楽ジャズの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
11		講義	韻を踏む技術を習得し実践できる。	押韻している楽曲を10曲調べレポート作成
12		講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
13		講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
14		講義	高度な韻を踏む技術の使い方を習得し実践できる。	作品提出準備
15		講義	学期末試験及び復習。	作品提出
準備学習 時間外学習			業界で活躍する作詞のスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Original song 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	サウンドプロデューサー、ギタリストとして活動						
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作詞、アレンジの能力が必要となる。本講義では作詞の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な作詞の応用を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
2		講義	高度な邦楽歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
3		講義	邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
4		講義	高度な邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
5		講義	邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
6		講義	高度な邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
7		講義	洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
8		講義	高度な洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
9		講義	洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
10		講義	高度な洋楽ジャズの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
11		講義	韻を踏む技術を習得し実践できる。	押韻している楽曲を10曲調べレポート作成
12		講義	高度な歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
13		講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
14		講義	高度な韻を踏む技術の使い方を習得し実践できる。	作品提出準備
15		講義	学期末試験及び復習。	作品提出
準備学習 時間外学習			業界で活躍する作詞のスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	日本語講座 3	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2		講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3		講義	「ごとく」を使った表現を使い分けすることができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4		講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5		講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6		講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8		講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9		講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10		講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11		講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12		講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14		講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15		講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習 時間外学習			様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 スピードマスターN1文法、新完全マスターN1語彙、その他必要に応じた資料				

科目名	日本語講座 4	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	パフォーマンスアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2		講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3		講義	「ごとく」を使った表現を使い分けができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4		講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5		講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6		講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8		講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9		講義	中間確認テスト及び復習。	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10		講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11		講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12		講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14		講義	試験	試験準備として、これまでのレポートを確認しまとめる。
15		講義	学期末試験及び復習。	1-11の苦手なところを確認し再度レポートにまとめる。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				